

会 議 録		令和6年8月1日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府福知山警察署協議会（令和6年度第1回）		
開催日	令和6年7月29日（月曜日）		
時 間	午後3時55分から午後5時30分までの間（95分）		
場 所	京都府福知山警察署 講堂		
出席者	足立（幸）会長、中司副会長、北村副会長、廉屋委員、足立（久）委員 福井委員、片山委員、堀委員、佐々木委員、福中委員 （欠席 佐竹委員） 計10人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、刑事課長、交通課長 警備課長、広聴相談係長 計9人		
諮 問 事 項	1 災害警備について 2 福知山警察署出前講座の実施状況について		
会 議 内 容	1 会長挨拶 司会 副署長 2 署長挨拶 3 委員自己紹介 4 福知山署幹部自己紹介 5 協議 司会 会長 (1) 諮問事項説明 災害警備について～警備課長 【委員】警察署の災害対策について説明をしていただいたが、消防署との連携についてはどうなっているか。 【警察】災害が発生すれば、福知山市が中心となり災害警備本部が立ち上がり、災害警備本部に職員を派遣して消防も含めて連携を図ることになる。 実際の対応については、その時々で違って来る。 【委員】災害時の避難行動要支援者名簿のようなものは警察にあるのか。 【警察】避難行動要支援者については、行政機関と連携を図り、把握に努めている。 【委員】警察の日々の訓練について知る機会がなかったが、今回の説明を受けて日々訓練されていることがよく分かった。		

原発事故が発生した場合、30キロ圏内に含まれるのは南有路地区だけか。

【警察】30キロ圏内に入るのは南有路地区と把握している。

【委員】福知山市は限られた地域ではあるが、原発事故に備える必要があると感じた。

【委員】普段から警察が訓練をしていることがよく分かった。

レスキュー隊について、京都は8人と説明があったが、各都道府県も同じ人数なのか。

【警察】8人というのはレスキュー技能指導員の数であり、各警察署へ指導に回る優秀な隊員であり、各都道府県で人数は異なっている。

レスキュー隊員については、京都府警では機動隊の一部と管区機動隊の一部が広域緊急援助隊という形で指定されている。

【委員】レスキュー隊員には、どのような人が選ばれるのか。

【警察】レスキュー隊員の中には、自ら学校に通って救急救命士の資格を取得した隊員がおり、その隊員もレスキュー技能指導員の1人である。

【委員】レスキュー道具を見せてもらったが、パトカーには他にも災害対策のための道具を搭載しているのか。

会 議
内 容

【警察】災害対策用としては先ほど説明した道具だけである。

【委員】刺股のような長い道具はパトカーに載せられるのか。

【警察】刺股は伸縮式なので、パトカーに載せることができる。

【委員】水難事故について、救助される側が助けられ方を学ぶ必要を感じた。

ボートから刺股を出してくれている人と、手を伸ばしてくれている人がいれば、心理的に手を出してくれている人に助けてもらおうと思うので、市民が助けられ方を学ぶ機会があれば良いと思った。

【警察】助けられ方について学んでもらえれば、多くの人が助かることにつながる。ペットボトルでの救助方法等は誰にでもできるので、周知していきたいと考えている。

【委員】レスキュー技能指導員は8人ということだったが、京都府警として力を入れているのか。

【警察】京都府警として力を入れているか、福知山署としては詳細を把握していない。

【委員】登山の際に、災害が起こって怪我をすれば119番通報をすると思うが、怪我をしていない場合でも110番通報しても良いか。

【警察】電波が通じている場所であれば、110番通報してもらいたい。

110番をしてもらえれば、GPSで場所の詳細が分かる場合もある。

【委員】興味深い話を聴くことができた。

他の委員の発言にもあったように、警察署内での訓練を目にする機

会がないため、警察署で訓練をしていることをアピールしてもらえれば、市民の安心感につながると思う。

【委員】災害時にボランティアと警察が連携することはあるのか。

【警察】直接的にボランティアと警察が連携することはない。福知山市の対策本部を通じて、同じ災害現場で協力をすることになる。

(2) 諮問事項説明

福知山警察署出前講座の実施状況について～警務課長

【委員】昨年12月の協議会で提案させてもらったものをスピード感を持って対応していただいた。

【委員】福知山市のホームページや防災アプリはよく目にするが、警察のホームページや防犯に関するアプリというようなものはあるのか。

会 議 【警察】京都府警のホームページはあるが、防犯アプリはない。

内 容 【委員】SNS等が発達していることから、より身近に感じるような広報の方法を考えてもらいたい。

【警察】幅広い年齢層に周知することが課題である。

【委員】広い世代に対して広報するのであればミニ広報紙等は効果があると思う。

最近では回覧版をLINEで送る自治会も増えているので、高齢者と若い世代が折り合いをつけていかななくてはならない。時代の変化に合わせた対応は難しいと思いながら話を聴かせてもらった。

6 事務連絡

令和6年度第2回京都府福知山警察署協議会については、協議事項も含めて事務局と調整の上、決定する。

以上

第1回京都府福知山警察署協議会の開催状況

